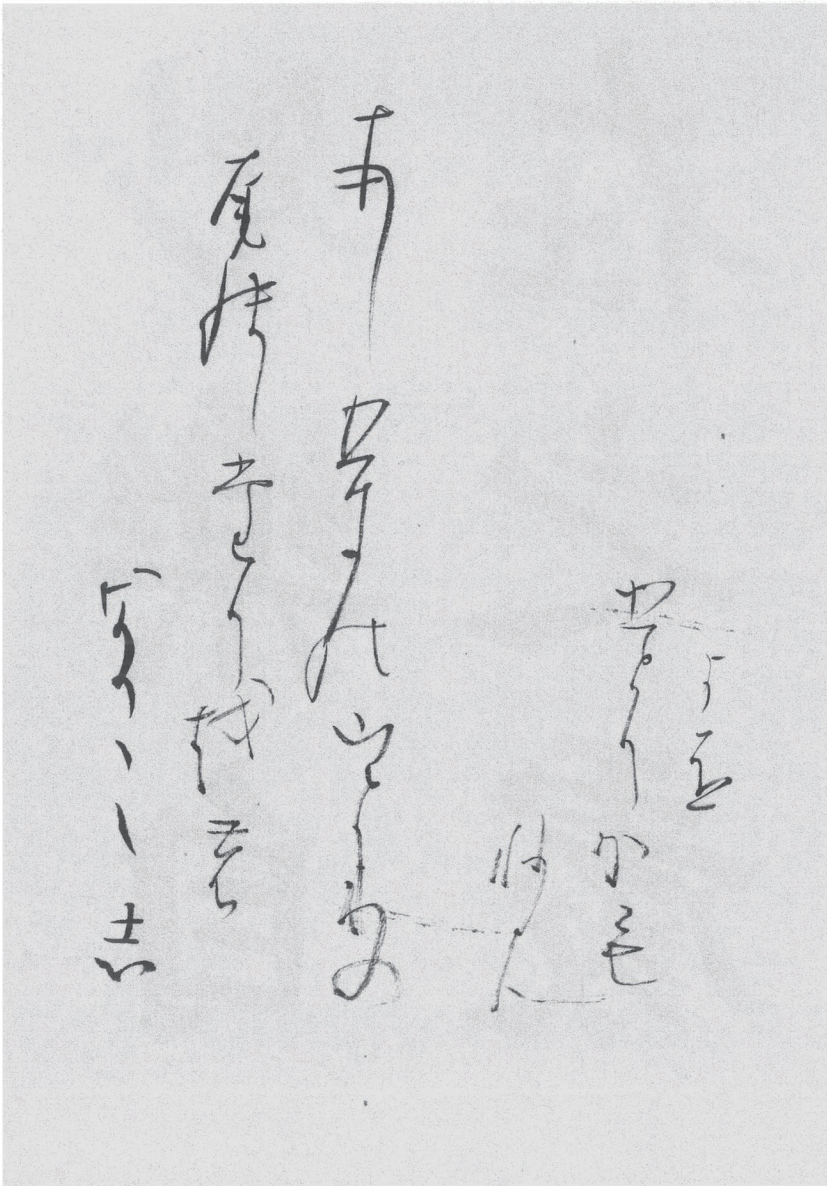


『百人一首』 中村素堂先生の仮名散らし書きの魅力 (三)

あしびぎの山鳥の尾のしだり尾のながながし夜をひとりかも寝む

柿本人麿



〈歌意〉

「山鳥の長い尾のように、長いこの秋の夜を、私は一人で寂しく寝るのであろうかな。」この歌は『拾遺和歌集』(十三卷 恋三の七七八番)より選ばれています。

(柿本人麿)

生没年不詳。「万葉集」に約九〇首を収録された

万葉きつての大歌人。宮廷歌人として皇室を賛美した歌が多い。長歌形式を完成。石見国(現・島根県)で没したともいわれている。後に、「歌聖」と称せられた。

〈字母〉

② よを
悲とりか毛
ねん

① あし 悲支能山と利の
尾能し堂り越農
な可、志

中村素堂先生の書

大島香菊様提供

「逆勝手」と呼ばれる構成で書かれています。中央から句がはじまり右に戻って終わります。右集団は小さめにおさめられています。(中村青藍)